

第8日

令和8年6月18日（木）

午前9時30分開議

○議長（小島清人君） 皆様、おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は17名で、会議は成立いたします。

議事日程表をお開きください。本日の議事日程については、タブレットに掲載のとおりであります。御了承願います。

一般質問通告書をお開きください。

それでは、日程に従い、17日に引き続き一般質問を行います。

それでは、15番大庭きみ子議員の質問を許可します。15番大庭きみ子議員。

（15番大庭きみ子君登壇）

○15番（大庭きみ子君） 皆様おはようございます。15番議員の大庭きみ子でございます。本日はお忙しい中に議会傍聴においでいただきまして誠にありがとうございます。また、インターネットで視聴していただいている皆様方、本当にありがとうございます。

今日は一般質問3日目となっております。その3日目のトップバッターを務めることとなりました。

まず初めに、市長におかれましては、このたびの市長就任誠におめでとうございます。市民の期待と信託を受けての御就任であり、心からお祝いを申し上げますとともに、朝倉市発展のために御尽力いただきますことをお願い申し上げます。

また、今議会におきましては17名中14名の議員が一般質問に立っております。これは市民の声を市政に届けようとする議員一人一人の思いの表れであり、議会の活性化という点でも大変意義深いことだと感じております。

中島市長が議員のとき、議論を深めるにはどうしたらよいのだろうか。議会を活性化するためにはどうしたらよいのかといろいろ心を悩ませておられましたが、まさに今議会では今までにない多くの議員による活発な議論が交わされております。

中島市長が目指してあった議会の活性化に向けて、一歩前進したのではないかと思います。

そして、市制施行20周年、新庁舎の開庁という新たな節目を迎えた今、朝倉市は新しいスタートラインに立っています。人口減少や少子高齢化など課題はありますが、市長と議会がしっかりと議論を重ね、市民の皆様と力を合わせることで、朝倉市の未来は必ず明るいものになると確信しております。

そのような期待を込めながら、市政のさらなる前進につながる建設的な議論となることを願い、質問席より質問に入らせていただきます。市長、執行部におかれましては明快なる答弁をよろしくお願いいたします。

(15番大庭きみ子君降壇)

○議長(小島清人君) 15番大庭きみ子議員。

○15番(大庭きみ子君) それでは通告に従い、一般質問をいたします。

まず、市長の所信表明の五つの柱の一つに、女性を応援、就労と子育ての両立を実現とあり、その中で特色ある教育環境の創出を上げられています。

これは昨日から9番議員や1番議員も質問されておりましたが、私は国家百年の計は教育にありと中国の管子にうたわれていますが、教育は子ども一人一人の生き方や幸せに直結しており、国や地域の発展の基礎をつくる大変重要な問題だと思っております。

目先のことだけに捉われるのではなく、長い目で見てよいまちづくりを行うためには教育はとても重要であり、市長はこれからの次世代を築いていく朝倉市の子どもたちをどのような子どもに育てたいとお考えでしょうか、まず伺いたいします。

○議長(小島清人君) 市長。

○市長(中島秀樹君) お答えいたします。

私は昨日から申し上げますように、グローバル、郷土を愛してそういう基礎を持った子が大きく世の中に羽ばたいて、そしてまた朝倉市のために帰ってきてくれる、そういった子どもを目指しています。

そして挑戦する子、自分の可能性を信じて挑戦するマインドを持った子、そういった子どもに朝倉市の子どもたちはなってもらいたいと考えております。

○議長(小島清人君) 15番大庭議員。

○15番(大庭きみ子君) 昨日からグローバルという子どもたちを育てていきたいという市長のお考えでした。

では、市長が考える特色ある教育環境とは具体的にどのような教育環境を目指すのでしょうか。また、他自治体との差別化も含め、朝倉市ならではの教育の特徴をどのように構築していこうと考えておられるのでしょうか、お尋ねいたします。

○議長(小島清人君) 教育部長。

○教育部長(草場 勉君) まずは、今の特色ある教育がどんなものをしているかということをお答えをさせていただきたいと思います。

鹿毛議員の質問でもお答えしましたがけれども、小中学校では各地域の伝統や歴史、文化を活用した特色ある教育を行っているところでございます。

例えば、蜷城小学校での青少年赤十字活動ですとか、三奈木小学校の蛍学習、馬田小学校の馬田うりの学習、立石小学校での頓田の森を題材にしました平和学習、杷木小学校で防災学習などを行っているところでございます。

中学校では、秋月中学校で稽古館の教えを活用した学習、南陵中学校では太鼓や獅子舞を披露する地域文化発表会など、それぞれの学校で特色ある取組を行っているところでございます。

また、そのほか、秋月小学校では英語を活用した活動を1年生から行っているといった特色のある活動を行っているという現状でございます。以上です。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 先ほどから申してありますように、グローバルですので、まず地域の特色、それから自分の地域の歴史なんかを学んでいただきたいというふうに思っています。そういった中で稽古館、申し上げていますが蜷城であったら少年赤十字、そういったものを大切にふるさとのすばらしさを学んでいただきたいと思っています。そして挑戦するということを私は大事にしたいと思っていますので、外で挑戦したければ、大きく羽ばたいてもらいたいと思っています。

そういった中で、挑戦するというのは自己肯定感がないとできないと思いますので、自己肯定感を大切にするような、そういった教育ができればいいなと思っております。

そして、私は、まだ御質問の中にはありませんけれども、英語教育というのを出させていただいていますので、これはコミュニケーションを取ることが大事なんだよと。コミュニケーション能力というのは、これから大切なものだと思っておりますので、コミュニケーション能力のある子どもたちになってほしいと考えております。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 今の秋月中学校の稽古館の教えとか、様々な各中学校、地域の特色ある教育方針を御説明いただきました。本当に秋月の稽古館の教えは大切な教育理念であり、行動規範に基づいておりまして、とてもそういうのは大事にしていきたいと思っております。

また、その中でちょっと今英語教育の話も出ましたが、昨日の話では、令和12年から小学1、2年まで英語教育が文部科学省のほうから学校現場におりてくるといような説明もあっておりましたが、これも私は疑問を感じております。

今の子どもたちの実態を見ていただきたい。子どもたちが今4年生から英語教育が入っておりますが、本当に子どもたちに力がついているのか。このあたりはぜひ検証していただきたいと思っておりますし、賛否両論いろいろございます。

現場の声も聞いていただきながら、本当に英語教育についていけない子どもたちが英語嫌いになったりとかしておりますので、そのあたりは本当に慎重に進めていくべきだと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

一つ思いますのは、やはり教員とか学校現場の声、また保護者の声を聞く仕組みを整えるとも施政方針の中に入っておりますので、ぜひとも現場の声、子どもたちの現状の姿を見ていただきたいと思っております。そういったようなお考えはいかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 大庭議員が御指摘のように、現場の課題というのはたくさんあると思いますので、現場の課題のほうには注意を払っていきたいと思っております。

やはり出ていくことによりまして、保護者の皆様とお話をしたり、先生方と一緒に話をしたり、そういったことで現場の課題であったりとか声を拾っていきたいというふうに考えています。

そういった中で、英語教育に対しての疑問があるということでしたけれども、私はコミュニケーション能力を上げたりとか、それからどうしても英語で話すというのは外国の方とのコミュニケーションになると思いますので、これから国際化社会を迎えるに当たって多様性を受け入れたりとか、それからそういった外国の方に対する抵抗感をなくしたりする効果があるのではないかと考えております。

それは、私は先ほど申しましたように、外で頑張りたい子どもたちが外に羽ばたくための一つのパスポートみたいなそういったイメージを持っておりまして、それは朝倉の子どもたちに、ひいては朝倉に対する未来への投資だというふうに考えています。

ですから、現場の課題と未来の投資、これは両方とも私は必要だと思っています。ですから、そこはバランスよく現場の課題を解決していく。それから未来の投資もやっていく。二つの2項目を対比する。どちらか一方だけ選ぶのではなく、バランスよく首長としてやっていきたいと思っています。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 確かに未来の投資というのはとても大事でございます。本当に子どもたちが世界に羽ばたく、それも大事なことでございます。

しかし、本当に義務教育の中で進めていくということに対して、今の子どもたちの国語力とか本当に学ぶ力、そういうのがついていないことがまた課題になってきたりしておりますので、そのあたりをしっかりと土台を作った上での外国語教育ではないかなと思っていますので、本当に個人差があります。

言葉の吸収する適齢期というのも吸収する時期もありますので、それが子ども一人一人によって違っております。そのあたりを一堂に、一斉にやるというのがどうかなということで、決して英語教育は悪いとは言っていないんですけど、子どもたち一人一人に合わせた指導をしていけるのかなという、ちょっと疑問がございますので、そこは本当に慎重に考えていただきたいと思います。

まずは国語力をしっかりつけることではないかなと、日本語を理解して日本の文化を学び、そしてきちんと自分の思いをコミュニケーションで伝えられる、その力があってからこそその英語力だと思いますので、そのあたりもよろしく考えていただきたいと思います。

今のところ現実的に課題がたくさんございます。子どもたちの環境を見ますと、本当に家庭の教育力の低下とか、地域の教育力の低下とかも大変今危ぶまれているところがあります。

学校に行けない子どもたちがいたり、配慮の必要な子どもがいたり、医療ケアの必要な

子どもがいたり、日本語が話せない子どもがいたり、学校現場様々な今課題を抱えております。

特に最近問題になっているのは、非認知能力が育ってない子どもたちが増えてきている。これはさっき言われたように生きていく力なんですね。意欲とかコミュニケーションとかリーダーシップとか集中する力とかやる気、これをまず育てていかないとその上に知識、学問というのは積み重なっていくものだと思っております。

この非認知能力が今の子どもたちは育ってきていないのではないかな。そのために私は教育現場でどうしたらいいのかを考えていただきたいと思いますと思っております。

これは教育現場だけではなくて、家庭、地域の力も借りて、周りで支えていかないと、子どもたちの将来が危ういのではないかなと今ちょっと感じています。

これだけ少子化になりまして、子どもたちの数も減ってきています。この子どもたちを一人一人を大事に育てていく、社会のお役に立てる、社会に貢献できる人に育てていくことが朝倉市の財産につながるし、持続可能な社会づくりになると思っております。

一握りの優秀なグローバルな子どもたちを育てるだけでなく、本当に底辺、申し訳ございませんが、子どもたち全員が誰一人取り残されることなく学力を身につけて、社会に適應できる、そういう人材育成をしていただきたいと思いますと思っています。

これは本当に地域ぐるみでやっていかないとなかなかできないことです。本当に心を痛めています。今の子どもたちの現状を見たときに、だから、その点、ぜひ市長も現場を見て子どもたちの実態を見て、先生や保護者の話を聞きながら、今の子どもたちに何が欠けているのか。本当に一人一人を大事にしていきたいと思いますと思っておりますので、これは本当に朝倉市の将来に係る大きな問題だと思っております。ぜひともよろしく、市長もそのあたりお願いいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 大庭議員がおっしゃるように、そういう厳しい環境に置かれた子どもたちがきつといらっしゃると思いますので、そのことにつきましては、大庭議員のほうから誰一人取り残さない教育というのがありましたけど、これは心がけたいと思っております。

もし、自分は大切にされていないと思われる子どもさんがいらっしゃるのであれば、そんなことはないということを行政としてサポートをしてメッセージを送っていきたいと思っております。

あなたは自分の可能性を信じなさいと、そういった温かい朝倉市でありたいというふうには思っておりますので、現場の声をよく聞き、努めたいと思っております。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） ありがとうございます。本当にまちづくりは人づくりだと思っております。そして人材育成、それは今の子どもたちをどう育てていくかにかかっていま

す。

昨日のキーパーソン、キーマンを育てなければという話も出ておりましたが、やっぱり教育なんですね。小さいときの教育が積み重なって、そういう人材育成をしていく。そこはしっかりと朝倉市の根幹に据えていただきたいと思います。

そして、持続可能なまちづくり、一人一人が幸せになる、子どもたちが目標を持って、自己肯定感を持って、生きがいを持って生きていける。そういう教育環境をぜひともお願いしたいと思います。

では、続きまして、次の質問に移らせていただきます。次は、同じく項目がありまして、所信表明の中の就労と子育てが両立できる環境の改善を促進すると上げられております。

この少子化が進む中、子育て世代が安心して子どもを産み育てながら働き続けられる環境づくりは、本市の人口減少対策や地域活力の維持にも直結する重要な課題であります。

そこでお尋ねいたします。市長が考える就労と子育てが両立できる環境とは、具体的にどのような姿を目指してあるのでしょうか。また、その実現に向けて、今後どのような施策を進めていくお考えなのか、市長の見解を伺います。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私の考えの根底の中に、子育てについてはまだまだ女性の方が、もちろん男性、父親、母親がいますけれども、女性のほうがやはりまだ負担が大きいのかなというふうに思っております。

そういった中で、今専業主婦というのは少なくなりまして、夫婦両方働いている方が多くなりましたので、女性は子育てをしながら働いているという、そういった難しい環境にいますので、そういう負担が少しでも、子育て面、もちろん就労の面で減らすことができたならば、もっと活躍できるのではないかと、そういう考えが根底にあります。

仕事と子育ての両立につきましては、子育て世代が働き続けられることを前提として、諦めなくていいと実感できる環境を整えたいと考えております。そのためには、単に子育て支援策を拡充するだけではなくて、働きながら子育てをできる環境づくりを進めることが必要であると考えます。

具体的には、子ども医療費の負担減など、保護者の経済的軽減、負担の軽減に加えて、就労継続の後押しにもなるものと考えています。

朝倉市では、子どもの医療費助成による負担軽減を図るとともに、対象を高校生まで拡大し、両立を支える環境整備を進めていくことにいたしました。

子育て支援については、これまでの保育サービスの拡充、経済的負担の軽減、相談支援体制の整備など、様々な施策を展開してまいりましたが、今後は個別施策の積み上げにとどまらず、明確な戦略を打ち出しまして、総合的に施策を組み合わせたいと考えております。

いろいろ企業の文化といいますか、職場の文化ってあると思うんです。そういったもの

が変わって、女性の働きやすい職場文化になる。

それから、例えば今は、大家族というのは少なくなりましたので、相談する相手がなくて、孤立する女性の方をできるだけ少なくしたいとか、そういったことを総合的にやっていきたいと考えております。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 女性を応援したい、就労と子育てが両立できる環境の改善ということで、本当にそれはありがたく感じております。

市長もかなり理解をしていただいているなと思っておりますし、やはりそういう社会が進んでいくといいなと思っております。

しかし、女性の就労の中で、本当に子育てと両立していく中には地域の支え、ネットワークが必要なんですね。今は、ワンオペ育児と言われて、ひとり親世帯も増えてきております。

働かざるを得ない家庭、親子、ひとり親世帯も増えてきております。働きたいというより、働かざるを得ない貧困世帯も増えてきているというのも事実です。

本当に働かざるを得ない人たちが子どもを育てながら、一生懸命生活できるように支えていくというのも、行政の役割ではないかなと思っています。

今、難しい世の中になっているんですね。最近、すごくワンオペ育児が増えてきました。ひとり親世帯が増えてきたということで、本当に苦労されています。近くに頼る人もいない。相談する人もいないという中で、本当にストレスを感じながら、でも働かざるを得ないという状況があるんですね。

本当に、ばら色ではないんです。女性が働くということは。その中で、生活に困難を抱える世帯が、今増えてきているなと感じております。

この朝倉市の中でも、市のほうが調査したことも計画の中に、貧困世帯のアンケートがあるんですが、42%のひとり親の中で貧困と思っている世帯がございます。だから、それをざっと計算しても、二、三百人はいらっしゃるのかなと。

だから、本当にそういう方たちにも光を与えて支援をしてほしい。頑張っている女性も大事ですけど、本当に貧困世帯で苦しい思いをしている世帯の支援というのもとても大事だと思っています。そこに今、光が立っていません。

私たち今、こども食堂とかフードバンクとかをやったりフードパントリーをして、ボランティアでやっておりますが、その中で学習支援をしたり、子どもたちの居場所づくりなど、地域の方とネットワークを組んで、子どもたちの支援、働く女性の支援、ワンオペ育児であるお父さん、父子家庭もございます。支援をいたしております。

こういう孤立しがちな親子を地域でつなぎ、見守りや相談支援につながるというのは、私は行政の役割ではないかな、そこまで目を行き届かせていただきたいと思っています。

市長は、子育てしやすいまちづくりを進める上で、こども食堂とかフードパントリーな

ど、地域の支え合い活動をどのように位置づけられておられるのでしょうか。また、貧困や孤立に直面する子育て世帯を、地域全体で支えるためのボランティアの育成や活動団体の支援、地域ネットワークづくりについて、今後どのように取り組んでいくお考えなのか、見解をお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 子育て支援の在り方につきましては、単に行政サービスを提供するだけではなく、地域全体で子どもと子育て世代を支えていくという視点、考え方が重要であると考えております。

これまで各種支援制度の拡充、充実に取り組んできましたけれども、制度の有無だけではなくて、実際の暮らしの中で支え合いが感じられる、要するに自分は支えてもらっているんだと感じられるような環境づくりが重要だと。朝倉では支えてもらっているなど、そういった環境づくりが大事だと思っております。

そういった中で大庭議員のほうから、地域で子どもを育てるという言葉が出ましたけれども、それは私は朝倉ってコミュニティが結構しっかりしておりまして、近所付き合いとか、そういったものはまだまだ残っている地域だと思っておりますので、子どもに関心を持つ大人を増やしたいと考えています。

今非常に子どもとの距離感といいますか、なんか叱ったり、例えば昔だったら雷おやじとかがいて、叱ったりとかしたとかいうようなのはありますけれども、今なかなかよその子どもを叱れないような、そういう時代になりましたので、やはり子どもの成長に大人が関心を持つ、そういうまちになりましょうよと、そういうことを大人が思ってもらえるような、そういった発信をしていきたいと思ってます。

大庭議員がなさっておりますフードパントリー活動のような支援の場が、仕組みとして地域の交流やつながりを生んでいるというふうに、私は認識しておりますので、こういった仕組みによって人と人がつながりまして、そういう温かみのある地域ができ上がるというふうに思っておりますので、そういった活動につきましては、それが継続していくように行政といたしましても、見守っていきたいというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 市長の地元の金川にもこども食堂が盛んに行われておりまして、これは、市長はそこを見にいかれたことがありますでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 食べに行ったことは実はないんですけども、見に行ったことはございます。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 本当に地域で支えるという、金川コミュニティの一つ例を挙げますけど、とてもがっちりしているんですね。地域、ボランティアの方、コミュニティの

方が全部関わってこども食堂を運営してあります。

本当にこども食堂のモデルになるところだなと感心しているんですけど、この朝倉市には9団体、こども食堂がございますが、本当に隣近所の方がそこに来て一緒に食事をする事で、子どもの様子を見たり、つながりができて、朝挨拶をしたりとか、本当に日常的なつながりがとても強いです。

本当に金川はモデル地区だと私は思っております。でも、全校区がそうではないんですね。そこそこ校区によって全部特色が違いまして、全く孤立しているところもございまして、昔は子ども会があったり、子どもたちの泊りがけの文殊様があったりとか、いろんな地域の行事があって、子ども同士がそこで切磋琢磨したり、地域の人がそこで関わって子どもたちを見守ったり育てたりという、そういう地域の教育力がありました。

しかし、今はそれが全くといっていいほどありません。子ども会に入らない世帯も増えたり、子ども会自体もなくなろうとしています。本当にみんなで子どもを育てていこうという意識がとても今なくなってきたんですね。これはとても危機的なことだと思っています。

だからこそ、今つくらないと、もうこれはばらばらになってしまいます。まず、子育てで大事なのは孤立化させない、親子をですね。それがとても大事だと思います。

だから、孤立化を防ぐためにはどうしたらいいのかということで、今はもう行政だけでは手が回りません。だから地域のネットワークや、ボランティアの方たちと連携をしながら、一緒にやっていかないととても追いつかないと思います。

今はこども食堂が、本当に子ども未来課が頑張って、市報にも載せていただいて、こども食堂の紹介をしてもらって、こども食堂の利用者も増えました。こども食堂も増えました。

少しずつ今、補助金も出るようになっておりますが、本当に市がバックアップをして広報してくださることで広がっていくんですね。ただ、個人個人の努力だけでは、とても続かない、持続が難しくなってきます。

だからそのあたりは、ぜひ行政として後押しをしていただきたいと思いますし、やっぱり市長の政策の中にそういう観点がないと、おりていけないと思うんですね。だから本当にこうやっている、いろんな施策を打ってあります。子育て支援も、本当に今度は医療費も高校まで無料になったり拡充していただいて感謝していますが、それだけでは子どもは育たないんですね。地域の力、皆さんが支え合うネットワークが必要です。だからそれを本当に今やらないと手後れになるなと思ってますので、ぜひそのあたりもきちっと市として支援をしていく、広げていく。

本当にボランティアって大変なんですよ。お金も暇もない中で、自力でみんな頑張ってますけど、そういうところに支援、補助金出したり支援をしながら、市が伴走していく。

中には時には市の職員も入っていただいて、現状を見ていただきたい。こういう施策が

必要だなというのを一緒に考えていただきたいんですね。

そういう寄り添った伴走型の子育て支援というのが、私は必要だと思っています。

だからたくさん朝倉市もよその自治体に負けてはいません。いろんな施策が打ってある。でもその中で孤立化している世帯が増えてきている。貧困世帯が増えている。ということでは何とか手を打っていかないといけないので、ぜひ市長はそのあたりを分かってくださると思うんですけど、さらに力を入れていただきたいと思っていますので、そのあたり市長として支援をしていくお考えがあるのか。

本当にボランティア団体を支援しないと、行政だけでは手が回らなくなるんですよ、今から先。職員も限られていますし、いかに地域の力を活用してキーパーソンを育てて一緒に連携をしてやっていくか。

その力がやっぱり地域を盛り上げていく、元気にしていくのではないかなと思いますので、そのあたりぜひ市長もお考えいただいて、拡充していただきたいと思います。まずそのお考えをお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 毛沢東の言葉だったと思うんですけど、「この空の半分は女性が占める」という言葉がありまして、やはり世の中には男性と女性がいらっしやいまして、女性が伸び伸びと活躍するということは、それは世の中の活力を生み出して、朝倉市の活力を生み出すと考えております。

そういった中で、昨日私は理念を大事にしたいと、北極星を示すというふうに申し上げましたので、朝倉市は女性が活躍していただきたいと思っております。

そういった中で、長く支援をするということが私は大事だと思っています。そういった中で必要な支援はどういったものなのかというのは、まだまだ分かっていないところがありますので、まずは私が現場を知らないといけないと思っておりますので、現場を聞いて、現状がどうなっているのかというのを学んでいきたいと思っております。

そういった中で、やはり財源の問題とかもありますので、こういった支援が一番順番として、処方箋として大切なのか、そういうのを見極めていきたいというふうに考えております。女性の支援というのは大事にしていきたいと思っております。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 本当に女性が元気なところは、本当にまちが元気になると言われております。地域のキーパーソンになっている方は女性が多いんですね。やっぱりその力を市長もよく御理解いただいているので、育てていただき、支援をしていただきたいと思います。本当にありがたいです。ぜひ見に来てください。現場を見てみないと現場主義って言われますけど、理念も大事です。でも現場を知らないとそれに近づく施策が打てないんですね。

だからもちろん、その施策を打つためには実態を知っていただきたい。今、子どもたち

がどんな状況の中に置かれているのか、子育て世帯がどういう課題を抱えているのか、一緒に考えていただきたいと思いますので、聞く耳をお持ちだし、市民の声を聞きたいとおっしゃっているので、ぜひともこういう団体にも顔を出していただいて、お話を聞いて、本当に行政と一緒にやっていただかないとつぶれます。ボランティア団体は本当に大変なんです。やる気と持続力と財源も要りますし、その中でモチベーションを下げずにやるというのはとても大変なんです。

苦しい思いをしながらみんな頑張って、でも今、地域の方が一生懸命支えてくださっています。

例えばパントリー一つにしてもフードバンク一つにしても、地域の60代から70代の方たちが、食品の仕分けとか分けるための分配の手伝いとか、取りに行ったり、いろいろ数をチェックしたり、管理をしたり、お手伝いしていただいて、すごい力なんです。

十四、五人のボランティアの方がいらっしゃるけど、こういう力が地域にもあるんだな、まだまだ朝倉市は捨てたもんじゃないなと、本当に感心しています。とても元気のある人たちがパワーがあって、しっかり子どもたちのために支えていこうという活動をしてくださっています。

これもボランティアですけど、そういう力を各地域でいっぱい育てていくと、もっともっと子育てしやすい。朝倉市に行くと、何か子育てしやすいよね、ここに住みたいな、そういう持続できるような支援、お金を支給するだけではなくて、そういう施策がぜひとも必要だと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、次の質問に移らせていただきます。これも出前型情報公開徹底推進についてと、市長の所信表明にございました。何人もの議員が質問されておりますので、重複するかどうかと思うんですが、私も行政情報を市民と共有し、市民参加のまちづくりを進めることはとても大変重要であると考えています。

そこで市長が考える、出前型情報公開とはどのようなものなのか。またこれまでの情報発信と何が違うのか。その目的と具体的な取組についてお尋ねいたします。

再度質問になりますが、よろしくお願いいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 昨日帰りまして、ずっとこの質問はたくさん受けましたので、今日も質問を受けるといふふうに分かっておりましたので、何だろうともう1回改めて考え直してみました。

私がやりたいことは、まず一つは市民の皆様の本音を聞くことなんだと思っております。市民の皆様の本音を聞いてみたいなと。私が出向いていくことによって、市民の皆様の本音が出るのではないかと考えております。

二つ目は、私が出向くことによって市役所と市民の、要するに行政と市民の距離感が縮まるのではないかと考えています。

私のイメージだけなんですけれども、そんなに市役所ってしょっちゅう来るところではないと思いますので、私が出向いていくことによって、行政と市民の距離感が縮まったらいいなと思っております。

あともう一つは、やはり先ほどから出ています、出向いていくことによって現場に行くことですので、私が現状を知ることになると思います。そこに多分諸問題の解決の種があるのではないかと考えています。

私よりもいい答えを持っている市民の皆様がいるんじゃないかと思っておりますので、その種を探したいというふうに考えております。

昨日から申し上げてますけれども、1回きりで終わりではなく、何回かお邪魔させていただきたいと思っておりますので、何回か行くことによって、今幾つか申し上げましたけれども、そういった出会いというのがあるのではないかと考えております。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） とても市民の声を直接聞くというのは大事なことだと思います。そういう心構えをお持ちになっているということで、それは大いに期待していることでございます。本当に諸問題の答えは現場にあるという、私も感じております。

しかし、それを具体的に政策に反映する仕組みがまた重要だと思うんですね。たくさんの御意見があるし、現場の課題が出てくると思います。それをどうやって政策に生かしていくのか、その仕組みというのが、市長一人ではとても手に負えないぐらい集まってくると思いますので、そのあたりの仕組みについてはどのようにお考えなのかお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まずは、まだ具体的にそこまでは行っていないというのが本当のところですが、ただ、先ほど言いましたように、市民の皆様の本音を聞きたいというふうに思っておりますので、昨日申し上げましたように、できるだけ少人数の職員の方と一緒に行くほうが本音が出るのかなと思っております。

そして、多分たくさんの要望とかも受けると思いますので、その整理の仕方というのは、こういった形で市民の皆様にお示しするのか。

ただ単に私が聞いて聞きました、うんうんというのも、それも一つの方法でしょうけれども、それだと市民の皆様の満足という反応を得れないと思いますので、こういった形でお示しをするのか。それにつきましては、今からというのが本当のところですので、よく考えて、多分かなりの量の情報をいただけたと思いますので、それをどういうふうに整理していくかというのは、これから考えていくというのが本当のところですが。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 本当に市民の声に耳を傾けようというその姿勢は、とても大事なことだと思いますし、期待をいたしております。しかし、本当に私たちも議会報告会で

各地区を回ったりさせていただいておりますが、本当に千差万別、いろんな御意見が出て、課題難題いっぱい出てまいりますので、とても大変な作業になるかなとは思っております。

ぜひともその中で精査して、本当にそれは市長の理念、また朝倉市がどう目指す方向性があると思いますので、それに合わせて本当に必要なものは取り入れていく。本当にエゴやわがままも出てくると思います。各地域の特色もありますし、その中で本当にこれから整理していく作業が大変重要になっていくと思いますので、ぜひそのあたりもしっかり考えていただいて、スタッフをしっかり育てていただいて、取り組んでいただきたいと思います。

根気と時間と体力の要る仕事だと思いますが、ぜひとも今後の取組に期待いたしております。よろしくお願いいたします。

では、次の質問に移らせていただきます。次は、これも市長所信表明の中に書かれていたんですけど、朝倉ブランド化の推進という中で、駅の利便性を高め、汎用性のある駅空間を創造するというのが上げられております。

これは昨日、9番議員の質問にも上がっておりましたので、甘木駅周辺整備基本構想の実現を目指すものと理解しております。

それで、この甘木駅周辺開発につきまして、長い年月をかけて議論をしまっており、国道322号線バイパス整備が進められており、クランクを解消するとともに、コンパクトプラスネットワーク型のまちづくりが今進められているところであります。これも長い間市民の意見を聞き取り、本当に担当課は苦慮されてつくられていますが、令和7年1月に甘木駅周辺整備基本構想が策定されております。

この構想では、交通結節機能の強化やにぎわいの創出、市民や来訪者が集い、交流できる駅前空間の整備などが示されています。

地元のほうでも、いつになったら整備が進むのか、いつ実現できるのかと大変心配されております。現在の進捗状況を教えてください。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（吉岡利憲君） 甘木駅周辺整備の進捗状況につきまして御説明をいたします。

まず、これまでの経過としまして、この事業につきましては、平成29年7月の九州北部豪雨災害からの復旧復興を最優先するというふうになりましたことから、一時中断をしておりました。

その後、災害後の社会情勢であるとか、本市の財政状況等の変化を踏まえまして、再度事業内容等を検討いたしました。その結果、福岡県が実施いたします国道322号の道路整備と連携しまして、甘木駅周辺整備を進めることとしまして、令和4年度に事業化に向けた検討を再開したところでございます。

この国道322号甘木バイパス計画につきましては、現在、都市計画道路千代丸堤線との

交差点から南側、東田交差点までの約1キロ区間、現道拡幅区間におきまして、用地買収及び道路工事が福岡県によって鋭意進められている状況でございます。

また、都市計画道路千代丸堤線との交差点から北側、甘鉄駅前交差点までのバイパス区間につきましては、現在、現地の測量が完了しておりまして、設計が進められている状況でございます。

甘木駅周辺整備につきましては、道路事業、鉄道事業と密接な関係、連携を図らなければ進行しない事業でございます。そのため、市と福岡県、鉄道事業者の三者におきまして、現在、合意に向けた協議を進めているところでありまして、市が行います甘木駅周辺整備につきましては、議員おっしゃいましたように、昨年2月に基本構想を策定しております。

今後、三者の合意を経まして、基本計画、基本設計等を進めていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） なかなか進まないというのが実態、実感でございます。かなり長い期間かかっておりまして、本当にこの甘木駅周辺基本構想というのは朝倉市役所ができて甘木駅を二つの核としてこの地域のにぎわいづくり、また町の活性化に寄与するというので本当に意気込みを入れてつくられた計画だと思っております。

今、また市長が変わりましたので、市長は今後この構想をどのように推進し実現していると考えておられるのか、その基本的な考え方をお伺いいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私はこのプロジェクトにつきましては、本市の中心的な拠点エリアとしてここを位置づけて、そうしまして利便性の向上とにぎわいの創出を図ることが必要であるというふうに考えております。都市機能の充実や強化につながっていくものだと思います。

その一方で、やはり具体化していくためには322のクランク解消をはじめ、交通結節点、結局甘鉄と西鉄の関係位置であつたりとか、それから周辺土地利用の促進であつたりとか、それから市街地地域の活性化であつたりとか、非常に土木であつたり建築であつたり都市計画なんかが一体となった、横断的にやっていかないといけない非常に難易度が高い面だと思っております。

財政面でも予算面でも大きなものになるというふうに考えておりますので、そういった中で、私は朝倉市の未来の玄関口をどういうふうにつくるのかと、そういったものだというイメージを持っています。

物すごく重要なプロジェクトですので、未来民間活力をぜひとも導入したいなと思っています。

そういった中で、市民の皆様に対しては人が集まって、そして暮らしやすい、そういったまちになったらいいなと思っております。

もう一つ働きやすいというのものもあるんですかね。通勤とか利用される方もいらっしゃると思いますので、人が暮らしやすくて働きやすくて集まりやすい、そういったまちになったらいいと思っております。

例えばなんですけれども、これはあくまでも私だけのイメージなんですけど、例えばそこに若い人が集まっているとか、イメージ先行で申し訳ないんですが、カフェがあったりして集まっていたりとか、買物客が集まっているとか、高齢者の方が買物がしやすくなったとかいって暮らしやすくなったとか、そういったまちづくりに結びつくような、そういったものになったらいいなと感じております。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 私たちも大変期待をしているんです。九州北部豪雨災害のときに凍結してしまいまして、それまでは森田市長の陣頭指揮のもとにこの計画をつくるということで進んでおりましたが、本当にいろいろなアクシデントがあって、ずっと地域の方たちは待ち望んでおります。

特に322号線の甘木駅のところのクランクが将来的には解消される、真っすぐに八丁トンネルのほうまでつながっていくということで、大いに期待をいたしております。この朝倉市としての起爆剤になる、昨日もおっしゃってましたけど、の一つだと思っています。

やっぱりそういう道路が整備されると商業施設も入ってきますし、ましてや企業も来るかもしれないし、住宅も建ち、人口も増加できる可能性もございます。

そういう都市型のまちづくりを、私はすごいチャンス、ここがもう一つの起爆剤になると今考えております。

庁舎もできましたし、この庁舎から甘木駅一帯を歩いて暮らせる、にぎわいのあるまちづくりというコンセプトですので、ここで人が集まりながら商業施設の中心になったり、市役所が中心として住民の方に情報を提供していける。本当に中心となる地域ではないかなと考えております。ぜひこれは早く進めていただきたい。

それはいろいろと三者協議もあって難しいってこともお聞きいたしておりますが、朝倉市の姿勢が大事じゃないかなと思うんですね、意気込みが。朝倉市としてはぜひともこれを次の市の発展につなげていきたいということで、ぜひ打ち出していきたい。

本当に今災害からの復旧復興でやっと復興にめどが立ってきていますので、やっぱりもう一つ起爆剤が要るんですね。やっぱり人を呼ぶための仕掛けが要ると思います。

そのためには今そこが本当に私は的確な場所だと思いますので、ぜひともこれを進めていきたいと思いますが、市長の任期中にどこまでこの計画を進めようとお考えなのか、どのようなスケジュールで進めていくお考えなのか、今のところの考えで結構ですのでお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 今大庭議員の方から三者という言葉が出まして、県と鉄道事業者

と朝倉市、この三者の調整が非常に重要だというふうに思っております。

そういった中で特に鉄道事業者の方の協力というのは必要ですので、一体となってこの事業を進めていきたいとは考えているんですが、一方でいろいろやはり認識の違いというのもございますので、それについては急いでやらないといけないというのは思っているんですが、急げば回れじゃないですけれども、慎重にやっていかないといけない部分もあると思いますので、やはり一定の時間は要するのかなと思っています。

まずは、私はこの件ではまだ鉄道事業者と話したりしたことがないものですから、そういったところから始めまして、具体的な説明ができるようになったときには、議会であつたり市民の皆様に説明をさせていただきたいというふうに思っていますので、取りあえずこれは大事なプロジェクト、起爆剤になるプロジェクトだと思っていますので、すみません、明確なスケジュールは申し上げる段階にはなっていませんけれども、御理解いただければと思っています。スピード感を持って取り組みたいと思っています。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 本当にずっと今までこの経過を見ておりましたけど、本当にやっぱりこれはトップの政策的な判断と行動力が必要ではないかなとは感じております。

本当に難しいっていうことはよく分かるんです。県のほうにも何度も毎年要望に行っております。地元議員としても。一向に進まない。

やっぱりこちら辺の、突き進んでいただきたい。やっぱり地元の代表としてぜひ市長がそこを尽力していただいて、うまく話を進めるように努力をお願いをしたいと思いますので、ぜひその決意だけお聞かせください。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 大庭議員のおっしゃるとおりだと思います。やはり市長の熱意というのは物事を動かす大きな要因になると思っていますので、そのところは本気度をきちっと伝えるように、三者のほうで話し合いを続けていきたいと思っています。

○議長（小島清人君） 大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） ぜひとも、市長は新しくなられましたし、また新たな気持ちで第一歩を踏み出していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

次の質問に移らせていただきます。次が、学校体育館空調整備の検討状況についてということで質問させていただきます。

私は3月議会において、学校体育館への空調整備について質問を行いました。近年の猛暑は児童生徒の教育環境に大きな影響を与えているほか、体育館は災害時には避難所としての重要な役割も担っております。

昨日は3番議員からも1番議員からも質問が出ておりましたが、そこでお尋ねいたします。

3月議会以降、学校体育館への空調整備についてどのような検討が行われたのでしょうか

か。また、国の補助制度や有利な財源の活用について、どのような調査研究を行われたのでしょうか。市として今後どのような整備方針を考えているのか、お伺いいたします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） まず、大庭議員が3月議会で質問されまして、その後なんですけれども、これは以前からなんですけれども、引き続き空調方式ですとか、財源の検討なんかを行いまして、それとほかの自治体に視察に行きまして、知識の蓄積といいますか、そういったものをしております。

本議会におきまして、小中学校体育館の空調整備に向けた基本設計、これを委託費として補正予算を計上しているところでございます。

財源につきましては、3月にもお話ししましたように、国の補助金ですとか5年間延長になりました緊急防災減災事業債、これが令和12年まで使えるということになっております。補助金につきましては、令和15年まで使えるといったことで、期限が区切られておりますので、この財源を有効に活用したいというふうに思っております。

今後のスケジュールなんですけれども、先ほど説明しました基本設計、これを業者のほうに委託をしたいというふうに考えております。

その中で、業者ですので専門的な知識、視点を持っておりますので、この中で今の施設の現状とか空調方式、どんなものがあるのかとかを検討する中で、昨日飯田議員のほうからも質問がございましたけれども、どのような優先順位でしていくかというのも、その中で一緒に検討をしていきたいというふうに考えておるところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 検討していただきまして、基本設計、またその方針に向けて委託費も計上していただいたということですので、それは感謝申し上げます。

しかし、整備完了まで時間がかかると思います。その間もますますこの猛暑は続いておりますし、温暖化はもっともっとひどくなっていくかと思えますけど、それまでの暑さ対策についてどのようにお考えなのか。

例えば児童生徒や避難者の安全確保のために体育館での学校行事や部活動の熱中対策をどのように行うのか。また、災害時の避難所開設において、スポットクーラーや移動式エアコンなどの配備状況はどのように考えてあるのか。また、整備完了までの暑熱対策をさらに強化する考えはないのか、併せてお伺いいたします。

○議長（小島清人君） 防災交通課長。

○防災交通課長（古賀 守君） まず、学校体育館につきましては、災害の発生時の避難所として活用することになります。

このため一部ではございますが、今年度国の地域未来交付金を活用いたしまして、避難所用の移動式エアコンを購入する計画でございます。

この移動式エアコンを学校体育館や武道場に配備し、平時においても少しでも暑さ寒さ

の対策に活用できるよう、教育課と連携して計画をしているところでございます。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 暑さ対策なんですけれども、やはり昨日の日野議員のプールの件と同じようになるんですけれども、まずはそういった暑さ指数とかを確実に測りまして、できないときは体育館は利用しないというような、学校上の運営はしたいというふうに思っております。

先ほど説明がございました防災交通課が購入予定の移動式のスポットエアコン、これにつきましても、学校体育館の暑さ対策の一つとして、つなぎとして活用させていただきたいというふうに思っております。

繰り返しになりますけれども、学校におきましては暑さ指数に基づく活動制限、小まめな水分補給、休憩時間の工夫など、現在も暑さ対策を徹底しておりますが、これに限らず子どもたちの安全、教員の負担軽減のため、空調が整備される間、学校と協議しながら必要なつなぎ対策を検討していきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） 消防防災課によるスポットクーラーを設置していただけるということで感謝いたします。ただ、あまり効果がどれぐらいなのかなというのはこれから検証しないといけないかなと思っておりますが、やっぱりこれだけ暑さ指数が高くなってくと、体育館が使えないという事態も起こるということをおっしゃってまして、やっぱり子どもの教育活動に影響を与えますので、これも急いで早めに整備をしていただく必要があるかなと思います。

学校の先生方におきましても、熱中症対策にすごく気を使ってあって、15分ごとに水分を取りなさいとか、激しい運動をさせないとか、本当に気を使って、それだけでもいつもよりもエネルギーを、ストレスとなっているという話もお聞きますので、ぜひともこれ整備が必要じゃないかと思っておりますので、今後一刻も早く進めていただきたいと思います。ここまで検討していただいたことには感謝いたしております。

今後さらにどう進めるかにおきましては、教育長のほうがお考えでしょうし、3月もお考えいただいていたということなので、ぜひともまたそのお考えをお聞きしたいと思します。よろしくお願いします。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） まず、学校の暑さ対策について御心配いただきまして本当にありがとうございます。私は中学校で長年教員をやってまいりましたけれども、例えば中学校で今から6月下旬から9月の中旬までが特に部活動で子どもさんや教員が一番熱の入る時期で、体育館も非常に熱くなる。暑さ指数も非常に高くなりまして、すさまじい暑さの中で練習をしている。武道館も含めまして、そういった時期でございます。

この御質問があります体育館の空調整備につきましては、児童生徒の体の安全の観点、

それとやはり災害時の避難所としての観点からも、喫緊の課題であるというふうに、これはもう以前から申しておりますけれども、そういったふうに考えております。

国におきましても、様々な補助等も準備しているという状況でございます。本市におきましては、やはり甚大な災害を経験した市といたしまして、また空調が整備された学校体育館がないことを鑑みまして、取り急ぎ調査研究をさらに行ってまいります。

今回補正予算で空調整備基本設計の予算を計上させていただきました。直ちに具体的な方針を決めまして、体育館の空調整備について今後進めてまいりまして、皆様にお示しできるようにしたいと思っております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） ありがとうございます。本当に子どもたちの健康を守るというのは、やっぱり教育委員会の仕事ではないかなと思いますので、ぜひとも安全に学習ができるような環境をつくっていただきたいと思いますと思っております。

本当にこれはお金のかかることでもありますし、朝倉市は17校あるんですね。やっぱりよそとは違う大変さもあるのかな。コンパクトなところは二、三校だったりするんですけど、この朝倉市はやっぱり一人一人誰も取り残さないってことで、17校が対象になってまいります。これをいつまでどう実現するのか。本当それは計画を立ててやっていかないと、いろんなことが入ってきます。

また、ほかにも要件、必要なことも出てきますし、これはぜひとも今教育長が述べられたように、学校の子どもたちの健康を守るとともに避難所、災害のときの避難所として活用してますので、もう平成29年7月の豪雨災害のときは大変でしたよね。7月の暑い中に体育館の中で避難所生活をさせられておりまして、熱中症にならないのかなと、私たちも見にいったときにも本当に気の毒なぐらい苛酷な状況の中で生活、暮らしをされておりました。一刻も早くこういう環境を改善してあげて、安心して生活できるような市民の安心安全を守るのは市の役割だと思っております。

また、市長も新しくなられまして、やっぱり市長のそこは責任になると思うんですね。市民の安心安全を守る。子どもたちの教育環境をよくしていく。これはとても大事なことです。

中島市長も、洋式化トイレのときにはすごく熱い思いで子どもたちのためにぜひ環境をよくしてほしいと訴えておられました。その姿がすごく目に焼きついておりますが、ぜひとも子どもたちのこの夏、体育館が使えないとか、本当に先生たちも体育の授業ができないとか、本当に子どもたちの発達にも影響してきますので、ぜひとも早急に私は市長が任期中にはぜひスケジュールを、ここまではやります。17校ありますので順番もあるでしょうけど、そのスケジュールはぜひ任期中には終わるような、立てていただきたいと思いますので、そのあたりの市長の決意をお伺いいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） このたび基本設計の補正を出させていただきましたので、これはやっていきたいというふうに考えています。ハードの部分ですね。クーラーの装置の部分はいろんなことが考えられまして、やはりできるだけコストを落としたような形でやっていきたいと思っています。

いろいろ新しい方式とかも出てきているようですので、それを研究しながらやっていきたいと思っております。私の任期中にできましたらできるように、先ほど言いましたように、子どもたちへの投資というのは未来への投資ですので、それは心がけたいと思っています。

防災の面、それから教育の面で必要な設備だと思っておりますので、しっかりやっていきたいと思っています。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） ぜひとも任期中には着手をしていただきたい。ここまでやりましたよ。結構時間かかるんですよ。視察に行きまして。

教育委員会も視察に行っていたと、感謝いたしておりますが、やっぱり効率的に財源もかからなくてやっぱりやり方があるんですね。そこを研究していかないと、本当に財源、限られた財源の中でやっていかないといけないので、その時間はかかるかと思います。

でも、着手したらあとは早いと思うんですね。十分に検討していただいて、いろんな特許を取られているやり方もあるし、体育館というのは広いので、一気に冷やすというのはとても電力も要るし難しいところがあるんだけど、本当に効率的に冷やす方法がございしますので、それはもう専門家の方たちが詳しいと思いますが、ぜひとも研究していただいて、本当にめどをつけていただきたい。

もう4年しかございません、任期は。そのうちに必ず着手してください。これだけのことをやりますという決意をもう一度お願いいたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 大庭議員の熱い思いというのは伝わってきましたので、私も挑戦したいと思っています。着手するように頑張って挑戦してまいります。

○議長（小島清人君） 15番大庭議員。

○15番（大庭きみ子君） よろしく願いいたします。期待いたしております。

それではこれで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 15番大庭きみ子議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午前10時50分から再開いたします。

午前10時37分休憩